

課題発見ゼミナール 佐藤健二クラス希望者：24名

私は、佐藤先生の心理学についてのコースを希望します。私がこのクラスを希望する根拠は二つあります。まず一つ目は、近年社会問題となっているうつ病について、学問的に知識を深めたいからです。社会人が陥りやすい、精神的な病気といわれるうつ病。その背景には職場でのストレスや、家族の問題など一人で抱えることができなくなることで、身も心も疲れてしまうのです。そういった意外と身近な病気にどのようにしたら発症しないで済むのか、また、発病者の支援体制の充実と支える家族のサポートを充実化するための方法も提案していきたいです。周囲の人や、もしかしたら将来自分になるかもしれないうつ病について、そうなったときに焦らなくて済むよう学問の視点から解決策を図ってきたいです。

二つ目は、近隣の医療機関と連携して作業ができることです。徳島大学が国立大学であるため、そういった地域の施設やそこで働く方々と共同して何かをすることは非常にしやすい環境です。その上、国の高等学問機関である大学が、学びの発展のために医療機関や教育機関などと連携することは、求められていることでもあります。しかし、なかなか日々の授業等でそういった外部の方と接触する機会は乏しく、文系である私たちが病院に行く機会はなおさらありません。だからこの貴重な機会を、存分にりようしたいのです。したがって、私は佐藤先生の心理のコースを希望します。

自分も心理的に不安定になりやすく、高校の時のクラスメイトにも鬱であったり不安定な人がいました。このような心理の問題は自分とは遠いところにあるものではなく、身近になってきています。そのような問題の原因を解明して少しでもほかの人の手助けをすることができればと思いこのクラスを希望した。

私は、将来心理学について詳しく学びたいと思っているため、小中学校の養護教諭である母から、ストレスや悩み、子供の不登校についての話などをよく聞く。母から聞いた、子供の抱えるストレスの問題、不登校の子への適切な対応やケアは、自分が考えていたものとは全く異なるところがいくつもあった。また、話を聞きながら、自分も昔「学校へ行きたくない」と思い悩んでいた頃があったのを思い出した。一度悩んでしまえば、なか

なかそこから抜け出すことができない。私の親戚の女の子も、今大きなストレスを抱えており「学校を休みたい」とこぼすことがよくある。不登校の数を 0 にすることは難しい。それゆえ、大事なのは、不登校の子や、心に悩みを抱えている子に、どのように対応すべきかを身につけておくということだ。そのためには、まず心理状態や、心の健康についての知識をつける必要がある。これは、将来直接心理学に携わる仕事をしないとしても、身につけておくべきものであると言える。なぜなら、ストレスは自分自身も、自分の友人、家族も一生付き纏うものであるからだ。だから、私はこのクラスを希望し、心理学について学びたいと考えている。

希望する理由は、私は徳島大学で心身健康コースに進んで心理学を学びたいと思っているからだ。心理学において、社会・医療・教育・犯罪など多様な場面に分かれて得た情報を共有し合い、多方面から心理学について考えたい。

私が選択したいゼミは、佐藤健二先生の心理学のゼミである。もともと私は心理学に興味があったというのが一番の理由なのだが、佐藤先生のゼミでは心理学を通して、社会的な課題の解決策を考えることができるというところに惹かれた。特に私は、災害などの体験からトラウマを抱えた人たちの回復法を学びたい。徳島県は近い将来、南海トラフ地震の発生によって大きな被害を受けてしまうことが予想されている。地震や津波では、建物の倒壊やライフラインのストップによって身体的ダメージを大きく受ける。しかし、身体的ダメージのほかにも、心的ダメージも受けることもあるだろう。ある日突然、家が津波によって流されたり、大切な人を亡くしたりすることで、心的外傷後ストレス障害(PTSD)になってしまったり、そこまでにはならないにしろ誰もが少なからずショックを受けるに違いない。そこで、このゼミで私は災害体験後の心理的ダメージについて学び、考えて、南海トラフ地震で被害を受けたとき、誰かの手助けになりたい。

日本では鬱に対してあまり印象が悪いと考えられる。「こいつが甘い」「根性がない」と扱われて、沢山の人が鬱を患っても外に言わないパターンも多く、とても厳しい状況だと考えられる。大学の勉強や社会活動によって、社会に「鬱は甘いじゃない!普通の風邪と同じように、心が病気になるだけです」を発信したい。特に大学は新しい考え方や新しい価値観が生まれる場所だと考えて、若者同士の交流によって次の新たな社会を共に築くこ

とは自分の希望である。

自分は心身健康コースの心理学専攻の道に進むことが目標なので、佐藤健二先生の心理学のクラスを希望します。自分の将来就きたいと考えている職業は心理カウンセラーです。その道に進むにあたり、抑うつ改善やいじめや依存症などの社会的問題についての興味・関心を深めていくことは必要不可欠なことであり、一年生の段階で実地調査まで経験できるというのは非常に大きなメリットであると考えています。

東日本大震災や熊本地震を経て、いつ南海地震が起こってもおかしくない現代の状況において、地震によるトラウマから人々を救う仕事はきわめて重要な意味を持ちます。起きてからではなく、起こったときのために、今学べることを学んでいき、いざその時になった時に精神的に疲弊した人々を確実に救っていけるようになりたいです。何よりもまず一年生という早い段階から心理に関する総合的な分野を調査し理解を深めていくということに大きな魅力を感じており、それが出来るこのクラスを是非受講したいです。

ガイダンスプリントの内容に関しては、まず公認心理士の条件や職の幅といった内容、実地調査の計画などに興味を湧いています。公認心理士は将来必ず必要になってくる資格であるため早い段階から詳しい解説を受けたいと考えており、また実地調査に関しても経験数を増やしておくことは大切です。

また、生物学・社会的なアプローチというのにも興味があります。抑うつ状態に遺伝が関わっている、というのがガイダンスプリントの内容だけではよくわかりませんでした。脳内物質や神経伝達物質が抑うつに関わることは理解できるのですが、それが遺伝とどう関係しているのかということが上手く理解できないので、講義の中でしっかり理解できるようになりたいです。

私は、来年度から心身・健康コースに進みたいと考えている。その前段階として、1年生のうちに、心理学における文献調査や実地調査を行いたいと考えたからだ。

近年、いじめや不登校に悩まされる児童や生徒が増加しており、2011年には滋賀県大津市内の市立中学校の当時2年生の男子生徒がいじめに遭い、自殺するに至った事件が発生した。その事をニュースで聞いた時、何か対策は出来なかったのかと感じた。そのような

事件を無くしていくために、特に教育機関における子どものストレスや問題を心理学の視点から考えてみたいと思った。

このクラスを希望する一つ目の理由は、私は心身健康コースで心理学を学びたいと思っているためである。そして、大学院に進学し公認心理師の免許を取得したいと考えている。今回の課題発見ゼミがその第一歩にしたいと考えている。

二つ目の理由は、私の父と兄、もっと言うと父方の家系の多くが教員などの教育にかかわる仕事に就いている。このクラスでは去年行ったものの中で、「犯罪」「教育」「産業・福祉」「医療」のそれぞれの機関にグループに分かれて実際に訪問し、調査を行ったというのを知り、その中でも特に「教育」のグループでは中学・高校の教員にアンケートをとり、教員が抱えるストレスについて調べるものであった。なぜこのようなことを行ったかというのは、教員はストレスを抱えやすいということが原因らしい。私がこのクラスを選択した理由は、先にも述べたように私の家族に教員がいる(いた)ので、その話を聞いたときに本当にそうであるのかということにとっても興味を持ったためである。

最後に、社会的にもやっとなり心理的な病やストレスについての理解が少しずつ深まってきているが、まだ十分でない。その普及に自分が少しでも貢献したいということと同時に、日本では私たちが思っているよりたくさん災害や、事故・犯罪の被害にあって苦しんでいる方がいることをよく考慮し、すべての人に寄り添える人間になりたい。そう思い、このクラスを選びました。

心理学は現社会を生きていくには絶対に必要な科目だ。また様々な要因で有意義な生活ができていない人がいるとなったら、臨床心理士または公認心理師という心理士たちは必要となる。日常生活だけでなく地震大国である日本では、大規模災害が起こる可能性がある。自らの体験から、地震はたくさんの死者を出すだけでなくたくさんの人の心も傷つけることを知った。よってそういう場面でも心理学を学んでいると役に立つ。こういうわけで、心理学を学べる機会を持てるのはこのクラスだったからこのクラスを選んだ。心理に関する基礎的知識も扱いながら、実際に感じることをできる機会を設けて欲しい。また、実際に公認心理師、臨床心理士になった人たちと話す場面を作ってもらい、臨床心理士になるために必要なことなどを教えて欲しい。

自分は将来の夢が児童福祉司として活動してみたいなと思っていて、佐藤健二先生のゼミでは心理学系のことが学べるから。またこのゼミでは対人関係で話すときのポイントや、相手を落ち着かせるような話しの手法など、心理学を必要とすることを実践し、学べそうだとこのころに期待している。また対人関係で話すときのポイントなどを知れることは、心理学系の資格が欲しい人にはもちろん、心理学の資格を特に必要としない人でも、日常生活で非常に役に立つから。

大学でもその後社会に出た時も私たちは集団の中で生活していくことを避けて通ることはできない。社会心理学では、人が社会から受ける影響にどんなものがあり、集団の中ではどのようなリーダーシップが有効なのか、社会の中で私たちが生活していく中で知っていて損はない興味深いことを多く取り上げている。例えば、相手に好意を持つと自分にも好意を持ってもらえる「好意の返報性」がある。これは、相手に好意を持ったり相手を高く評価したりして、そのことを相手に伝えることにより、相手も自分に対して好意を持ってくれたり高く評価してくれたりする、というものである。集団の中で生活を送る私たちにとって他者からの好意や評価は良くも悪くも大きな影響を与える。それを学び考える機会はなかなか得ることができないためこのクラスを受講したいと思った。また、臨床心理学や健康心理学は医療的な場面で使われることが多いが、精神的なストレスは誰もが抱えているものであり、この二つの分野からどのようなアプローチをしていくのかを学んでみたい。

このゼミでは、うつや不登校、さらに虐待や自殺などの現代における心理的問題について学ぶことができ、その治療法や解決策を考えることができる。現代社会では上記のような問題で社会になじめずにいる人がたくさんいる。財政政策で資金援助はできても、心理的サポートはなかなか難しい。社会になじめない人たちには、彼らを理解してくれる存在が必要だと思う。だからこのゼミはそういった人たちを理解するための良い機会であると思う。よって私はこのクラスを希望する。

私は、2年次から心身健康コースに所属したいと考えている。私は、入学当初は心身健康コースでスポーツ経営学や運動生理学を学びたいと思っていた。しかし、入学後、心理学の教授が心理学の勉強は楽しいと熱心に語っていて、心理学にも興味が出てきた。佐藤教

授は前期に心理学の授業を開講されているが、私はそれを受講していない。2年次以降のことを考えると、この機会に心理学の勉強をしたいと思ったため、佐藤教授のクラスを希望する。

私は、今までスポーツを続けてきて、体を動かすことが好きだ。心理学にはさまざまな種類があることを学んだが、私は自分が好きなスポーツと心理学を結び付けたスポーツ心理学を学びたい。そのためにも、課題発見ゼミの講義では、これからスポーツ心理学を学ぶための基礎を築くことを期待する。

私がこの講義を選択した理由は、今、社会で起こっている問題を目に見える物質的な観点からではなく、心理学の観点から扱い、人の心と行動の関係をみることで新たな側面を見つけ出し、解決策を見つけ、問題解決に向けての一步を作りたいからです。また、問題の解決策を見つけていく過程で、実際に話を聞き、グループで話し合うことで得たものを、違う分野の問題を解決していくことに活かせたり、自分自身の生活にも活かせたりするのではないかと思ったからです。

私は将来、公認心理師になり、心に関する支援を要する人の援助をしたいと考えている。そのために、二年次からのコース選択前の第一段階として、心理学について学びたいので、佐藤健二先生のクラスを希望した。今回のコース紹介で、佐藤健二先生が「地方へ行くほど、精神科などの受診を周囲に知られたくない人が多い」とおっしゃっていたのを聞き、確かに日本にはそのような傾向があると思った。「こんな自分の問題を自分で解決できず、人に話すのは恥ずかしい」「自分の問題は自分で解決しなければならない」といった、日本特有の「恥の文化」や「和」を尊重する考え方が影響しているのだろう。

しかし、悩みを人に話したいのに話せないとすれば、さらにストレスになるものだ。アメリカでは、カウンセリングは「自己管理のため」「心の調子を整えるため」に受ける、という考えであると聞く。日本のように、「心を病んだ人が受けるもの」というネガティブな考えではなく、「少し話をしに行こう」というように、気軽に通えるものらしい。

私は、日本においても、カウンセリングを受ける人だけでなく、その周囲の人の意識を「カウンセリングは心のメンテナンスのために受けるのだ」というポジティブなものに変えていきたい。そうすることで、カウンセリングに行きやすくなると思うからだ。

佐藤健二先生のクラスは、心理学が関わる社会的課題について、抑うつを治すために生物的、社会、心理からアプローチするというゼミ内容で、とても関心を持った。私は、心理カウンセラー目指していて、心が辛い人とどうかかわっていけばよいかを知ることができる機会だと考えるので、このクラスに入って学びたい。また、病院に行って、現場で働いている人にインタビューをする活動をしたと聞いて、臨床心理士になって実際に働いている人に、現状はどうなのか、また、カウンセリングをしていて良かったこと、辛かったことをインタビューして、今後、心理学を学んでいくうえで参考にしていきたい。

私は、佐藤健二先生の心理学に関するゼミを選択したいと考えている。私たちが生きている現代はストレス社会と言われており、心に対する関心が高まっている。ストレスと一言でいっても、職場や学校における対人関係によるものや犯罪や災害によってトラウマとなるものまで様々である。私は、これから社会に出る身としてこれらのストレスに関する知識や対処法を身につけるべきであると考えている。そのために、まず身の回りの心理学が関わる社会的問題について理解を深め、現代における人々の心の状態を知る必要があり、この課外発見ゼミで実践的に学びたい。

私は2年時のコース選択で、心身健康コースを選択したいと考えています。そのため、佐藤健二先生のクラスで心理学についての知識を深めたいと考えています。

私は後期の課題発見ゼミナールでは、佐藤健二先生のところで心理学について勉強したい。それは、将来臨床心理学や心理学に関する研究をして、臨床心理士の資格を取得したいという理由からである。あと、佐藤クラスでは心理学に関係のある施設や、そこで働いている人たちの話も聴けるとのことだったので、ぜひ病院や福祉関連の施設で働いている臨床心理士の方に話を聴いてみたい。

もしくは、県や市の児童相談所・児童養護施設の方たちから話を聴いて、徳島の児童福祉の現状や、実際に現場で感じる難しさを調査し、理解を深めて勉強する。現在、目黒区の五歳児のこどもが、親から虐待を受けて死亡した事件が多くのメディアで取り上げられている。こういった児童虐待の事件は後を絶たない上に、事件がある度にその事件があった場所の児童相談所に、事件で虐待被害を受けたこどもへの、事件が起きるまでの対応に関するクレームが鳴り止まないのも事実だ。そこで、実際にどこまで児童福祉の力でこど

も守れるのか、また、虐待を受けた児童側の立場からだけでなく、加害者である両親の立場からも児童虐待という問題を考える。そこから、虐待を受けているまたは過去に虐待にあった人・虐待を児童にしてしまった人両方への支援の仕方を探りたい。

もちろん、自分の進むコースと後期の課題発見ゼミナールの分野は違っていても構わない。だが、比較的時間のある一年生の時期に自分の進みたいコースの内容をじっくりと調べて、さらにステップアップしておきたいという理由で、後期の課題発見ゼミナールの授業では心理学のクラスを一番に希望する。

私の母は以前に鬱病にかかってしまったことがあります。原因は私と妹にあり、仕事も辞め、自宅教養となってしまうととも責任を感じました。当時は私は小学生で何も知らない状態だったため、今詳しく知る必要があると感じました。鬱病のことを詳しく知るような内容ではなくても、関連しているような心の病などのことを考えていきたいと思っています。

私は子供の心理について深く学ぶことのできる、佐藤健二先生のクラスを志望する。志望する理由を今回は二つ述べる。一つ目は、少年犯罪についてである。1980年代の少年が検挙された人数が約28万人とかなり高い数値が記録されていた。近年では当時と比べ、それほど高い数値は出ていないが、それでも、約半分の13万人の少年が検挙されている。少年犯罪は万引きや暴力のほかにも殺人も起こっている。なぜこのようなことが起こってしまうのか、そして起きてしまった後の被害者そして加害者の心のケアはどうすればいいのかそもそも犯罪自体をなくすためにはどういったことをするべきなのか、といったことについて学びたい。

二つ目は、虐待やいじめである。ニュースでよく、学校でのいじめが原因で自殺や不登校になってしまう子供がいるという情報を見る。子供のいじめだからと言って軽く考える方もいるかもしれないが、このニュースを見るとそうは思えないであろう。また昨年では小学校全体の117,384件がいじめにあっていたが、今年度は118,805件といじめの件数が増えているのである。こういった問題を解決、改善していくためには、佐藤先生のクラスを希望する必要があると感じた。

私は、人の心理特に児童期の心理について勉強していき、一人でも多くの子の相談に乗り、解決することのできるスキルを身につけ、教育機関であるスクールカウンセラーまたは福祉である児童相談所といったところでスキルを発揮していきたいと考えている。よって佐藤先生のクラスを志望する。

私は将来心理学に携わる職業に就きたい。その為、この佐藤健二先生のクラスならフィールドワークとして病院に訪問したり、警察に行ったりして実際に抑うつ状態のことや犯罪について学べる。こういったことを、一年生のうちから身近に学べることは私にとって非常に将来のためになる。

また、二年生以降心身健康コースでは社会心理学を本格的に学びたいので、その前に一年生のうちからフィールドワークを通して勉強しておくことでより理解が深まる。